

淡紅ナルアリ、ウラベニト云、又フジリンドウアリ、淡紫色ナリ、又蔓生アリ、是ハ深山陰地ニ生ズ、花微シ、早クシテ淡紫色、形チハ同ジクシテ微小、後花中ニ實ヲ出ス、桃葉珊瑚實ノ如シ、冬ニ至テ熟シテ赤シ、春ニ至テ尙存ス、コレヲツルリンドウト云フ、又春リンドウハ陽地ニ生ズ、高サ二三寸、四月莖梢ニ花ヲ開ク、一二萼或ハ四五萼簇生ス、形ハ龍膽ト同シテ小シ、日中ニ開キ暮ニ收ル、葉ハ圓小ニシテ尖ル、伊勢ニテハ水澤中ニ生ズ、方言サハギ、ヤウト云、水泥ニ種ヘ、螢籠ノ中ニ入ル、ト云、集解ノ山龍膽ハハルリンドウナリ、本草彙言ニ石龍膽ニ作ル、嶺南ニテハ小ナルヲ石ト云、イトス、キヲ石芒ト云例ノ如シ、

〔廣益地錦抄〕四龍膽 さ、りんだうの根をいふ、花紫なるを藥種に用、花ざかりは久しくながめあり、花壇に植べし、

〔草木育種藥下品〕龍膽 草 山の崖などにあり、植る地は赤土又粘ある野土によし、米泔水を澆、外の肥は悪し、

〔剪花翁傳九月開花〕笹龍膽 花濃青又白、形ち朝貌の荅のごとくにして中開也、白花を上品とす、開花九月上旬より十月迄あり、方二分陰、地三分濕、土回塵肥干、淡小便、分株移とも春芽出しの時よし、水はもし上がたき時ハ、切口を又切捨、わら菰の類にてよく包み、水にひたして後水器に入をくべし、

〔延喜式三十七典藥〕諸國進年料雜藥

山城國卅二種、略 龍膽、通草、各五斤、大和國卅八種、略 龍膽三斤、略 下

〔出雲風土記神門郡〕凡諸山野所在草木、略 龍膽

〔伊勢集〕りうたん

風さむみなく雁がねの聲すなりうたむ衣をまづやかさまし